

来週の市場とレート予想

	11/20(月)	11/21(火)	11/22(水)	11/23(木)	11/24(金)
無担保O/N			△0.086%	~ 0.001%	
銀行券	+ 100	△ 1,000		△ 2,000	△ 1,000
財政他	△ 28,200	ト ン		△ 1,000	△ 5,000
資金需給	△ 28,100	△ 1,000		△ 3,000	△ 6,000
主な要因	国庫短期証券 発行・償還(3M・1Y) 国債発行(20年) 国債償還(変動15年)				交付税特会借入・償還
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,400 CP等買入 △ 500				
オペスタート	共通担保(全店) + 2,400 ETF買入 + 100	国債買入 + 8,500 短国買入 + 5,000 CP等買入 + 2,000			祝日
(日本)	貿易統計(10月)		日銀営業毎旬報告 (11月20日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額		
(海外)	米 景気先行指標 総合指数(10月) 欧 ドラギ ECB総裁、 欧州議会で公聴会出席 (ブリュッセル)	米 中古住宅販売件数(10月) 米 イエレンFRB議長講演	米 新規失業保険申請件数 (前週分) 米 耐久財受注(10月速報値) 米 FOMC議事録 (10月31-11月1日開催分) 欧 ユーロ圏消費者信頼感 (11月速報値) 米 ミシガン大学消費者 マインド指数(11月確定値)	米 祝日 欧 ユーロ圏総合PMI (11月、速報値) 欧 ユーロ圏サービス業PMI (11月、速報値) 欧 ECB議事要旨	独 Ifo景況感指数(11月)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.045 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.035 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.030 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、国庫短期証券・国債発行等の要因で前週末対比1兆9,400億円減少の366兆9,100億円から始まった。その後、16日には国債発行等要因で減少し、週末には365兆3,600億円となった。
無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.048%から始まり、積み最終日となる15日には地銀業態を中心に調達圧力が強まり△0.045%まで上昇した。11月積み期に入ると、同業態の調達圧力は弱まり、週末17日には△0.048%に低下した。
ターム物は、1W~1M物で△0.045%~△0.035%の出合が見られた。
11月17日に実施された国庫短期証券買入オペのオファー額は5,000億円と、前回オファー分(11月10日、オファー額1,000億円、応札倍率5.98倍)より4,000億円の増額となった。応札倍率は2.86倍となり、前回対比で低下する結果となった。
来週は、日銀営業毎旬報告(22日)、海外では、イエレンFRB議長講演(21日)、FOMC議事録公表(22日)などが予定されている。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.170 ~ △0.250
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<TDB>

今週の入札発行総額は約6,400億円で、週間償還額の約4,200億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。5・10日発行に当たり、幅広い業態からのまとまった金額での発行案件が見られたが、総じて落ち着いた商状であった。発行レートはほぼ横這い推移で、ごく薄いマイナスから0%近辺での出合い。16日には、CP等買入オペ(2,000億円)がオファーされ、按分落札レート△0.001%、平均落札レート0.001%と前回比横這いの結果となった。来週の償還額は、2,600億円程度となっている。発行市場は、賞与資金手当ての発行や月末発行の前倒し案件等から発行案件が増加し、活況となるだろう。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続き0%近辺での出合いが予想される。現先レートは、△0.100%~0%程度の出合いで、横這い圏内での推移。

<TDB>

15日に行われた国庫短期証券1Y第721回債の入札は、最高落札レート△0.1936%(前回債△0.1618%)、平均落札レート△0.2145%(同△0.1687%)と前回からマイナス幅を拡大した。一方、16日に行われた3M第722回債の入札は、最高落札レート△0.2270%(前回債△0.2549%)、平均落札レート△0.2382%(同△0.2780%)と前回債からマイナス幅を縮小している。
週末のセカンダリー市場は、3Mが△0.243%、1Yが△0.217%の出合が見られた。来週は22日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.085%~△0.09%と先週末対比上昇して始まり、T/Nでは△0.07%台の取引も一部見られた。以降週央にかけては△0.10%~△0.105%に低下。TDB1Y、3Mの発行が重なった20日受渡してもレートの上昇は見られず、週末には国庫短期証券・国債買入オペがオファーされ、△0.11%~△0.12%に低下し越週した。SC取引では、週を通して10年347回債、348回債のbidが多く、347回債は概ね△0.10%台後半~△0.20%近辺。348回債は週初△0.10%台前半の出合いであったが、15日の国債買入オペ後レートが低下。週後半にかけて△0.10%台半ば~後半で多く取引された。他2年380・381・382回債、5年131・132・133回債、10年336・340・341・342・346回債、20年161・162回債、30年55・56回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。